

# 「好奇心&楽観主義」と「ことづくり &ものづくり」が日本を変える



## 馬越恵美子氏

桜美林大学 経済経営学系 教授  
異文化経営学会 会長

## 長島 徹氏

日本在外企業協会 会長  
帝人(株) 会長

米国の住宅バブル崩壊、リーマンショックに続き、3・11 東日本大震災、タイの洪水、EUの金融不安などに加え、混乱が続く政局も追い打ちをかけ、新たな「失われた10年」に再突入した感のある日本経済。激動が予想される2013年を迎え、日本の人材、企業、国は、何をなし、どうあるべきなのか。

### 苦しくて楽しい多様な経験

**馬越**：会長のご経歴を拝見しましたが、とても多彩なご経歴ですね。

**長島**：技術系なので研究開発に憧れて入社し、最初は繊維の研究所に配属されました。しかし3年間ほどしたら、「どうも自分の性に合わない」と思い始め、すぐ子会社へ行きました。子会社では生産現場の品質管理をやり、4年ほどで本社へ呼び戻されました。今度は、研究所で開発された技術を実際に生産技術に移す部署に異動しました。そのうちに、「部内でお前が一番若いから、海外留学に行くか」、「はい、行きます」と二つ返事でアメリカに1年ほど行きました。帰国後すぐに「メキシコに行け」、「えっ」、「メキシコはスペイン

語ですが」、「そうだ」。今までの英語の勉強はどうなったのかと思いつつもスペイン語の勉強を始め、メキシコに飛んで行きました。

**馬越**：どのくらいメキシコにおられましたか。

**長島**：上司に「メキシコは何年くらいですか」と聞いたら、指2本を立てて見せました。「2年なら引越し荷物も少なく、家族を呼んで過ごしたらあつという間だ」と思っていたら、延長・延長で結局4年になりました。英語を勉強していたおかげで、スペイン語もある法則を見つけ出し、割と簡単に感じました。スペイン語の歌も覚えてスペイン語を勉強したところ、半年くらいでスーッと話せるようになりました。4年後に帰ってきたら、今度は「子会社へ出向してくれ」。新しい技術の開発を担当することになり、「ずっとここに